

博物館だより

第70号

2007.10.25

Nagano City Museum

茶臼山自然史館特集号



▲茶臼山自然史館外見



▲企画展示室



▲常設展示室



▲茶臼山自然史館まつり（ザリガニつり）

茶臼山
自然史館
企画展

『茶臼山自然史館 22年間のあゆみと収集標本』
開催中（～11月25日(日)）

★11月3日以降は入館無料です★

今年で閉館する茶臼山自然史館 22年間のあゆみをたくさんの写真と収集標本で紹介しています。自然史館まつりを開催する11月3日・4日から閉館までの期間は入館無料です。ぜひおでかけください。

茶臼山自然史館のあゆみ

茶臼山自然史館は開館以来22年間、小さなお子さんを連れた親子を中心に多くの皆さまに親しまれてきましたが、戸隠地質化石館と統合して新しい博物館を戸隠に設立するため、今年11月25日(日)を最後に閉館することになりました。

ここでは、現在開催中の企画展「茶臼山自然史館22年間のあゆみと収集標本」の内容を中心に、自然史館の歩みとこれまでの活動についてご紹介します。

■自然史館の設立

自然史館が立地する茶臼山公園は、大正時代から昭和40年代まで続いた「茶臼山地すべり」の被災地です。昭和40年代後半から実施された本格的な地すべり対策工事によって地すべりが沈静化すると、まず昭和55年に地すべり跡地に恐竜公園と自然植物園が整備されました。昭和58年には、これに隣接して茶臼山動物園が開園しました。

茶臼山公園に動物・植物・恐竜に関する施設がそろったことから、これらについて総合的に学習できる施設を創ろうという気運が高まり、昭和59年に公園内へ自然史系の博物館を建設することが決定されました。その後、展示の内容などについて有識者らとの協議を重ね、資料収集や建設工事が急ピッチで進められて、昭和60年9月23日に茶臼山自然史館が長野市立博物館の分館としてオープンしました。

■里山の自然に囲まれた博物館

自然史館の周辺は、棚田や果樹園、ため池、草地、雑木林などがモザイクのように入り交じった、典型的な里山です。自然史館のすぐ近くで希少種のゲンジボタルやツメレンゲ、野生のキキョウが生息・成育しているなど、里山の自然が良好な状態で残されています。

市街地の近くでありながら豊かな自然が残り、遊歩道や公園が整備されている自然史館周辺は、里山の自然観察をする上で絶好のフィールドです。また、自然史館から徒歩で30分ほどの所にある茶臼山山頂の崖では、約600万年前の植物の化石を採集することができます。

自然史館では、この恵まれた自然環境を生かし

て、化石採集会や昆虫観察会・水辺の生き物観察会など、各種の観察会や体験教室を、主に子どもを対象にして毎年実施してきました。

また、一般の方を対象にした、郷土の大地の成り立ちや防災についての見学会もほぼ毎年実施してきました。



▲建設中の自然史館（昭和60年6月）



▲開館記念式典（昭和60年9月23日）



▲入館者 10 万人達成（平成8年10月10日）

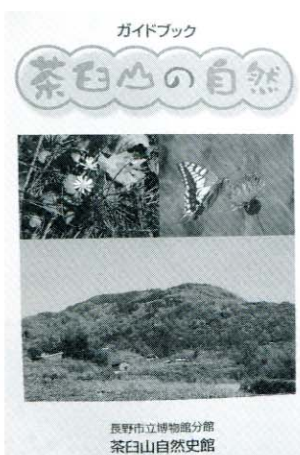
■展示活動

自然史館の常設展示は、いろいろな化石などを展示し、生物の進化や長野の大地の生き立ちについてわかりやすく解説する内容になっています。開館以来、新資料の追加や展示装置・映像ソフトの更新を幾度か行ってきました。90年代後半からは、館周辺の「ため池」に生息している魚介類の生態展示や茶臼山の動植物の写真を1階ホールで展示しています。

また、固定化した常設展示を補うために、化石・鉱物・昆虫・植物などの様々なテーマで特別展・企画展・移動展を数多く開催してきました。その回数は、小規模な移動写真展を含めると合計60回以上に及びます。

■出版物

展示解説書、特別展図録6冊、収蔵資料目録5冊を発行しました。平成16年にはガイドブック「茶臼山の自然」を発行し、好評を頂いています。



ガイドブック▶
「茶臼山の自然」

■友の会・同好会の活動と自然史館まつり

長野市立博物館友の会は、博物館を身近に利用し、学び、楽しむ、みんなが創るみんなのための会として平成5年に発足した団体です。発足以来、茶臼山周辺や近隣の野山の自然観察会を、自然史館職員が案内役となって毎年開催してきました。

平成11年には、自然観察会の常連さんたちが中心となって、「ワクワク自然同好会」が設立され、自然史館を拠点にして自然観察や身近な自然の調査などの活動を楽しく続けています。

平成12年から、毎年秋に博物館友の会と共催で「自然史館まつり」を、平成16年から5月5日に「春の自然史館まつり」を開催してきました。ザリガニ釣りやクイズラリーなどのコーナーが人気で、毎回数百人もの参加がありました。

企画展「タヌキが語る茶臼山の自然」で▶
紙芝居「チャタロウの一日」の上演
(平成17年7月～11月)



▲カブトムシの飼育観察会（平成12年5月）



▲茶臼山の化石採集会（平成16年3月）



▲田んぼとため池の生き物観察会（平成17年5月）



収 集 標 本

自然史館には、化石・岩石・鉱物・昆虫・植物など、2万点を超える標本が収蔵されています。これらの収集標本には、職員が調査研究活動によって収集したものと、皆様からご寄贈・ご寄託いただいた標本があります。

調査・収集した標本の中には、学術的に重要なものがいくつかあります。中でも平成6年に北安曇郡小谷村で発見された恐竜足跡化石は、長野県唯一の恐竜化石であると同時に、国内産の恐竜化石の中では最も古い（中生代ジュラ紀前期・約1億9千万年前）、極めて貴重なものです。自然史館には足跡化石の複製が展示されており、実物は小谷村で保存され、長野県天然記念物に指定されています。



▲国内最古の恐竜足跡化石（平成16年10月）



▲東御市の千曲川右岸でアケボノゾウ切歯(キバ)化石を発掘（平成元年6月）

一方の、寄贈・寄託標本は自然史館収蔵標本のおよそ9割を占めています。自然史館の展示活動は、これらの資料を寄贈・寄託して下さった方々に支えられてきたといっても過言ではありません。ここに標本寄贈者・寄託者のご芳名を挙げさせていただきます、謹んで感謝申し上げます。

なお、これらの収集標本の大半は、来年7月にオープン予定の戸隠地質化石博物館（仮称）に引き継がれます。皆さま、ぜひお出かけください。



▲京都大学が実施していた小松原断層のトレンチ調査現場で断層のはぎ取り標本を採取（平成17年10月）

閉館にあたって

最後に、これまで茶臼山自然史館を支えていただいた皆さま、ご利用頂いた皆さま、22年間本当にありがとうございました。（畠山 幸司）

標本寄贈者・寄託者（敬称略）

青木克文／浅見昭子／飯島南海夫／生島高俊
／池田 穰／石垣 忍／井出秀夫／伊東美知子／稲森 潤／上平 実／海野夏子／大木淳一／大久保邦彦／大田繁則／亀井節夫／倉田稔／小池伯一／甲田 実／国立極地研究所／小島秀康／酒井潤一／坂井 誓／境 隆浩／酒井 実／佐藤晴子／猿島忠幸／曾根原方教／高島慶一／高橋美津夫／高松良尚／武井勇志／田中邦雄／田中秀夫／檀原孝行／塚田卓／寺沢 泰／伝田勝久／富沢恒雄／中川政幸／中澤克三／中島義和／中条正勝／中塚敬之助／七瀬裾花グループ山と谷の会／野村恵智雄／羽田 収／日野善太郎／平井利子／平林照雄／福田俊信／藤沢福蔵／藤田 敬／古厩 繁／松木淳二／松木洋一／松本修一／松本 史／南沢 修／宮下 勝／美谷島 行男・くに子／森 啓／森島一夫／森山公一／守屋益雄／両角和子／八木健三／矢口忠良／山口武人／山口雅巳／山腰 悟／山本晋二／由井俊三／行松敏明／湯本博康／吉川博章／吉澤房齋